

平成24年度JRA畜産振興事業 助成金支出明細書

1. 事業の名称	多様な牛肉生産体制確立支援調査研究事業		
2. 事業の目的及び内容			
(1) 目的	<p>我が国固有の遺伝資源である黒毛和牛は、その特徴である霜降り(脂肪交雑)に重点をおいた家畜改良等が行われてきた結果、脂肪交雑に優れた特定の種雄牛(系統)への利用が集中し、血縁関係が急激に高まることによる遺伝的改良の発現や選抜限界の早期化が危惧される状況となっている。</p> <p>このような状況を踏まえ、国の「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」等の中で、従来の脂肪交雑中心の牛肉生産から、消費者が食べて美味しいと感じる美味しさ評価に着目した多様な肉用牛の生産を推進することとしている。</p> <p>このような中、全国統一化した美味しさに関する評価基準の標準化や消費者が牛肉を選定・購買する際の選択肢の一つとなる美味しさ評価の表示方法等を確立することが必要である。</p> <p>また、脂肪交雑に優れた種雄牛以外の繁殖性や産肉能力等の経済形質に優れた特色ある系統集団について、美味しさ評価等を踏まえた種雄牛系統の再構築を行うことが必要である。</p> <p>このため、牛肉の美味しさに関する評価基準の標準化や美味しさ評価の表示方法を検討するとともに、経済形質等に優れた特色ある系統集団の再構築を行い、我が国畜産の振興に資する。</p>		
(2) 具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業全体の効率的かつ効果的な推進を図るための実施方針や具体的な実施方法の検討、達成目標の検証等を行う検討委員会・部会を開催する。 ・ 全国統一した牛肉の美味しさ評価基準の標準化を図るため、食肉脂質測定装置により、オレイン酸等の脂質の測定とサンプル収集・分析を行うとともに、脂質の表示方法等について、全国統一化するための調査研究を行う。 ・ 第10回全共長崎県大会で一般消費者を対象としたオレイン酸含量の異なる2種類の牛肉を用いた食味官能調査を実施し、併せて理化学分析を実施するとともに、併催事業館等の設営や特色ある系統種雄牛の展示、牛肉の美味しさや系統再構築に関する公開セミナーを開催する。 ・ 地域に賦存する特色ある系統から造成された系統種雄牛の活用方法の検討、遺伝的情報分析結果に基づく系統特有の特長や経済形質等に関する情報を活用し、今後の系統再構築に向けた検討を行う。 		
3. 特例民法法人の名称	(社)全国肉用牛振興基金協会		
4. 助成金の実績額	48,284 千円(A+B)		
5. 助成金における推進事務費			
(1) 技術指導事務費(人件費)	7,165 千円(①)		
(2) 事務諸費	170 千円(②)		
(3) その他推進事務費			
	内 容	金 額	
	賃金	687 千円	
	旅費	870 千円	
	計	1,557 千円(③)	
	合 計	8,892 千円(A:①~③)	
6. 外部への支出			
	支出内容	支出先	金額
	検討委員会・部会・現地検討会等		1,494 千円
	会議費	食料品小売店	4 千円
	会場借料	施設賃貸会社等	38 千円
	委員旅費	委員等	1,212 千円
	委員謝金	委員	240 千円
	測定データ収集・分析等		11,961 千円
	調査旅費	格付団体、登録団体等	1,315 千円
	サンプル・データ収集・整理費	格付団体、登録団体、収集備品販売業者	882 千円
	サンプル・データ分析費	遺伝子分析研究所等	6,502 千円
	分析結果取りまとめ費	登録団体等	793 千円
	消耗品費	分析用薬品・器具機材販売会社等	927 千円
	食肉脂質測定装置借上費	リース会社	1,377 千円
	通信運搬費(分析試料運搬費)	郵送業者	117 千円
	子牛特長調査・輸送費	登録団体	48 千円
	第10回全共長崎県大会普及啓発等		25,937 千円
	牛肉の美味しさに関する官能調査費	食肉販売業者、事務用品業者等	3,017 千円
	特色ある系統種雄牛の展示経費	登録団体	2,800 千円
	併催事業館等設営費	第10回全共実行委員会	19,467 千円
	セミナー講師旅費	委員	277 千円
	セミナー講師謝金	委員	16 千円
	セミナー資料・パンフレット作成費	印刷業者	360 千円
	合 計		39,392 千円(B)